

大谷學報

第六十六卷 第四号

昭和六十二年一月三十日発行

宗教の森……………岩田 慶治 (1)					
——東南アジア、スリランカを調査して——					
『法華玄義』における眷属の意味……………福島 光哉 (20)					
經典延書と語彙……………片岡 了 (31)					
エミリ・ブロンテの詩……………村瀬 順子 (45)					
——『嵐ヶ丘』への道——					
// 見仏 // について……………大城 邦義 (60)					
——仏説觀無量寿經を読む視点——					
昭和六十一年度 大谷学会研究発表要旨…………… (72)					
彙 報…………… (89)					

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷大学研究年報 第三十八集

誓願一仏乗……………神戸 和磨
——仏と魔——

鳩摩羅什の訳経……………木村 宣彰
——主要経論の翻訳とその草稿訳について——

本朝目錄史考……………高橋 正隆
——紫微中台遺品『判比量論』の研究——

平安時代寺名索引……………佐々木 令信
——『小右記』『権記』『御堂関白記』『左経記』——

大谷学報 第六十六巻 第三号

「単独者」について……………大屋 憲一

——M・ブーバーとS・キェルケゴール——
元朝治下における漢人一族の歩み……………藤島 建樹
——蕞城の薰氏の場合——

傷寒論とその処方……………葛山 輝清
リルケにおける死の問題……………友田 孝興
浄土の教え・念仏のころ……………藤嶽 明信
保守主義の概念と特質……………小川 賢治
——保守主義の理論的考察に向けて——

大谷学会 春季公開講演要旨
仏教における教団史研究の意味……………平川 彰
……………東京大学名誉教授
人間・あそび・自然……………大谷大学教授 岩田 慶治

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

- Cultural Ecology of Religions in south
and south-east Asia *Keiji Iwata* (1)
- The Meaning of the Buddha's Retinue in the
Fa hua Hsuan i *Kosai Fukushima* (20)
- On the Vocabulary and *Nobegaki* Writing Style
of Buddhist Texts *Osamu Kataoka* (31)
- On the Poems of Emily Jane Brontë *Yoriko Murase* (45)
——The Road to *Wuthering Heights*——
- On the Vision of the Buddha *Kuniyoshi Oshiro* (60)
——Towards an Interpretation of the
Fú shuǐ guān wú liáng shò jīng——

Résumés of the Papers Presented at the Otani Society

- Annual Meeting (72)

Miscellaneous :

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学、その他の學術研究と発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要な事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学部のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会において互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千元とする。但し、学生会員は式千円とする。

第十一条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第十二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十三条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員

大竹 鑑

寺川 俊昭

木村 宣彰

長崎 法潤

友田 孝興

西井 元昭

名畑 崇

松村 尚子

藤田 昭彦

箕浦 恵了

昭和六十二年一月三十日発行

大谷学会

編集兼 白井元成

印刷者 西村明

京都市北区小山上総町

大谷大学内

発行所 大谷学会

振替 京都 四一八三九三番

電話(〇七五) 四三二一三三二代

郵便番号 六〇〇三

大谷学報 第六十六卷 第一号

アーサー・ケストラーの生涯と

彼の問いかけ……………多田 稔

大乘阿毘達磨集論 (Abhidharmasamuccaya)

並びに Abhidharmasamuccaya-bhasya
の和訳 (2) ……………舟橋 尚哉

六・七世紀における荊州佛教の動向…大内 文雄

言語と反省……………須藤 訓任

——クロソウスキー『ディアナの水浴』より——

T3ファージの尾部繊維の構造……………加藤 尚子

大谷学報 第六十六卷 第二号

三朝高僧伝攷……………滋賀 高義

——訳経篇にみる役職名について——

松蒼巖的著述攷……………後小路 薫

——西国洛陽三十三所の観音靈驗記を中心に——

Sankhya 思想における認識主体の

問題……………浅野 玄誠

——upadhi, caitanya を中心として——

存在拘束性概念をめぐる……………千葉 芳夫

——Seinsgebundenheit へ

Seinsverbundenheit——